

【様式】

平成30年度 学校マネジメントシート

学校名（県立名張高等学校）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		「自律」「協調」「創造」を校訓とし、総合学科の特色である人間性と専門性を育成し、地域に信頼され、社会で活躍できる人材を輩出する学校。
(2)	育みたい 児童生徒像	<p>○ 4つの力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「気」 挨拶がしっかりできる。端正な服装ができる。時間をきっちり守れる。</li> <li>・ 「心」 自分の力で取捨選択し、他者と協調協力して物事をすすめる。</li> <li>・ 「体」 部活動や地域との活動に励み心身を鍛える。</li> <li>・ 「技」 特技を伸ばす。資格を取得する。進路を実現する。</li> </ul>
	ありたい 教職員像	<p>○ 生徒とともに</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 信頼 生徒との信頼関係が構築できる。</li> <li>・ 授業 授業を中心に生徒の人間性と専門性を高めることができる。</li> <li>・ 相談 学習の躓きや日頃の悩みに耳を傾け、粘り強い支援と指導ができる。</li> </ul> <p>○ 保護者・地域社会とともに</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 信頼 保護者との信頼関係が構築できる。</li> <li>・ 連絡 日々の様子や変化を的確に連絡できる。</li> <li>・ 情報 希望する進路が実現できるよう早め早めの情報提供ができる。</li> </ul> <p>○ 教職員とともに</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業改善、業務の効率化、円滑な引き継ぎ、研修参加、研究発表等、より良くすることで「働きやすい職場」と「働きがいある職場」をつくる。</li> </ul>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>&lt;生徒&gt;</p> <p>生徒アンケートの結果、生徒の約40%が就職を希望し、約30%が専門学校、約30%が四大・短大への進学を望んでいる。授業、学校行事、部活動を中心に教育活動のすべてに対する期待度が高い。</p> <p>&lt;保護者&gt;</p> <p>保護者アンケートから学校目標や教育目標への理解度は高い。多様な進路に対応し進路実現を可能にしてくれる学校になってほしい。家庭学習の充実を求める声がある。</p> <p>&lt;地域&gt;</p> <p>地域を支え、地域をリードする力を持った人材の輩出</p>	
	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<p>&lt;家庭&gt;</p> <p>生徒全員が安心・安全に学べる環境と校風。</p> <p>&lt;地域&gt;</p> <p>信頼できる学校から、学ばせたい学校への進化。</p> <p>&lt;就職先&gt;</p> <p>卒業生や勤務先の先輩からの期待を裏切らない人材の輩出。</p> <p>&lt;進学先&gt;</p> <p>学ぶ力と志を備えた人材の輩出。</p>	<p>&lt;家庭&gt;</p> <p>基本的な生活習慣の確立。本校教育方針へのさらなる理解と協力。</p> <p>&lt;地域&gt;</p> <p>学校と地域が共働した取組みへの推進。</p> <p>&lt;就職先&gt;</p> <p>インターンシップ、進路講話への協力。</p> <p>&lt;進学先&gt;</p> <p>高大連携授業、進路講話への協力。</p>

(3) 前年度の学校  
関係者評価等

○ 総合学科の教育課程経営とキャリア教育

担任団・学校運営部・進路指導部が中心となり、多様な生徒の興味・関心・進路に対応した総合学科の教育課程経営が行われている。創立 100 周年を超える名張高等学校の伝統が、生徒に安心感を与えているのは大きな強みであり、それを活かし、細やかなキャリア教育の展開が図られている。生徒が教職員を信頼していることも態度から感じられる。極めて高く評価したい。引き続き、生徒の興味、関心、能力を十分に引出し、自己実現、進路実現がなるよう、教育に取組まれたい。また、生徒・家庭・社会から何が求められているか、その認識を不断に努め、経営改善を継続していただきたい。信頼を維持するだけでもたいへんなことだが、地域からの要望にもあった「信頼できる学校から、学ばせたい学校への進化」が課題となろう。

○ 確かな学力の向上に向けて、学ぶことの意義を認識させる教育

進路の違いに関わらず必要な基礎学力充実のための取組み、SHR 学習、読書習慣の確立につながるビブリオバトルや図書館利用、英語の音読など、言葉への取組みが充実している。極めて高く評価できる。しかしながら、家庭学習の時間をしっかり確保できない生徒が散見される。教科の勉強が生活するための思考力とつながることに気づかせ、学びへの意欲をさらに喚起する必要がある。キャリア教育のさらなる充実をはかり、生徒に学びへの目的意識を持たせることも有効であろう。日常的には、教員への信頼感、親近感を勉強への集中力に導き、生徒を鍛えてほしい。

○ 豊かな心と健康な体の育成のための多彩な教育活動

基本的な生活習慣の確立のため、生徒への遅刻指導や健康管理に力が注がれ、それが生徒の清潔感を生んでいる。これは生活指導に留まらず、生徒一人一人の生きる力の涵養を図っている姿でもある。極めて高く評価できる。また、学校行事や人権学習等も充実しており、生徒の満足度も高い。このような取組みが、生徒のよりよい未来を拓くものであることを、生徒自身に認識させていく必要がある

○ 信頼される学校づくりと広報活動

名張高校の優れた教育活動を、地域・社会にアピールすべく、広報活動の充実が図られた。家庭や地域、関係機関との連携のために、今後も継続した情報発信の充実が望まれる。特に、情報発信元として、ウェブ・ページの重要性を指摘しておきたい。読み手が名張高校の教育の良さを感じ取れるような情報発信内容と、その方法に工夫がなされると良い。

(4) 現状と  
課題

教育  
活動

○ 授業・学習指導

学校全体に授業に集中できる雰囲気がある。しかし、家庭学習の習慣がなく、理解度が深まらない生徒も多い。能動的に学ぶ生徒を育てるために「授業改善」に継続的に取り組む必要がある。

○ 学級指導

学年団の高いチームワークによっていじめのない学級がつけられ、生徒は安心して登校している。しかし、不登校傾向のある生徒、心身に課題のある生徒等、生徒対応に苦慮する場面も多い。「カウンセリング手法」の習得や「保護者対応」のノウハウを学ぶ機会が必要である。

○ 生徒・安全・健康指導

組織的な指導力の高まりの結果、命や人権を大切にする指導が適切に行われていると感じる生徒が 90%を超えている。しかし、軽率な発言や周囲への配慮を欠いた行動が依然としてある。生徒の心に響く「講演会」を継続して行う必要がある。

○ 進路指導

生徒の進路実現に向け組織的な取組みが構築されつつある。情報提供、補習、学習合宿、進路講演会など時期を逃さず行っている。しかし、生徒の本気に火がついていない。本質的かつ先進的な取組みを行っている学校、教員から学ぶことで総合学科名張高校のブラッシュアップを図りたい。

学校 運営等	<p>○ 教育活動全般</p> <p>入学満足度調査の結果、肯定的な回答が1年次88%、2年次68%、3年次80%となった。組織的な取組みの継続と教員一人ひとりの頑張りが数値として現われた。一方で、2年次の満足度の落ち込みが続いている。この原因がどこにあるのか「教育課程及び授業内容」「学級指導」「進路指導」「学校行事」を中心に課題を明確化し、優先順位を決めて改善策を実行する。</p>
-----------	---

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>○ 授業</p> <p>生徒の確かな学力の向上を図るため、すべての教員は積極的に授業改善を進め「わかる授業」と「将来につながる授業」を行う。</p> <p>○ 指導</p> <p>豊かな心を育成するため、教職員は人権教育を柱に安心して学べる学習環境を整える。規範意識をさらに高め、生徒の自己肯定感・自己有用感の醸成を目指し、粘り強い指導と支援を行う。</p>
学校運営等	<p>○ 働きやすさ</p> <p>無駄な仕事はやめる。①名張高校にとって良いことで現在実行していることは「継続する」。②名張高校にとって良いことなのにできていないことは「すぐ始める」。③すぐにやめた方がいいことは「すぐやめる」。</p> <p>業務の効率化と円滑な引き継ぎによって「働きやすい」名張高校を目指す。</p> <p>○ 働きがい</p> <p>会議時間を縮減する。①早め早めの連絡調整を徹底することで会議時間を短縮する。②各種委員会での議論を深め、委員会から改善案を提案し、改善策を実行に移す。③空き時間は教材研究に集中できる組織風土を育てる。各部各学年が約束し責任に果たすことで「働きがい」のある名張高校を目指す。</p>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
確かな学力の向上	<p>(1) 学習習慣の確立と基礎学力の定着</p> <p>① 1学年</p> <p>「SHR学習の実施(One Week トライアル・漢字・百マス計算・読み物等)により、学習習慣を確立し、基礎学力の定着を図る。」</p> <p>【成果指標】</p> <p>a 学年末の基礎力診断テストの結果、GTZのD3の生徒数を50名(全体の25%)以下</p> <p>b 漢字検定の合格者を80名(受験者の40%)以上</p>	<p>(1)</p> <p>① 1学年</p> <p>a 第1回: 61人 第2回: 51人 第3回: 38人</p> <p>b 48人 (受験者の25.4%)</p>	※

<p>確かな学力の向上</p>	<p>② 2 学年 「次年度の進路実現に向けて、SHR 学習及び総合的な学習の時間において、基礎力診断テストの事前課題である『One Week トライアル』に取組み、基礎学力の向上を図る。」 【活動指標】『One Week トライアル』を 2～3 週間前に配布し、SHR で毎回取組むとともに、総合的な学習の時間においても各回各教科 1 時限ずつ解説し学習する機会を設定する。GTZ が D3 の生徒に対しては、担当教員が重点的に声かけを行い支援する。状況に応じて補習を実施する。 【成果指標】基礎力診断テストの結果、全員が GTZ の D2 以上。 (参考:1 年次 D3 の生徒 第 1 回 29 名→第 2 回 52 名→第 3 回 38 名)</p> <p>③ 3 学年 「進路指導を充実し、進路指導に対する生徒満足度の向上を図る」 【活動指標】進路指導に対する満足度、“満足した”が 85%以上 【成果指標】満足度調査を実施し、『名張高校の進路指導に満足しましたか』に”とても満足した””満足した”と回答した合計数。</p> <p>(2) 授業改善 (教育運営部) 「思考力・判断力・表現力が育つよう授業改善を行い、生徒が能動的に学ぶ授業を実践する。」 【活動指標】各教科の実施状況、達成状況</p> <p>(3) 進路実現 (進路指導部) a 希望進路の実現 「進学では、学習合宿の実施や進学課外を充実し、第 1 志望の進路先への合格 90%を目指す。就職では、就職対策講座の実施や面接指導の充実を図り、第 1 次内定率 90%、3 月末内定率 100%を目指す。」 【成果指標】第 1 志望の合格率, 1 次内定率および 3 月末内定率 【参考】H29 第 I 志望の合格率 89% 1 次内定率 93% 2 次内定率 100%</p> <p>b 基礎学力の定着 「3 年間で 7 回の基礎力診断テストを実施し、生徒の基礎学力の定着を図るとともに、基礎学力と進路実現との相関関係を分析することにより、教員の共通理解の基盤として低学年からの進路指導に活かす。」 【成果指標】学習到達ゾーン上昇者数 【参考】H29 上昇者数 1 年→49 人→99 人 2 年→71 人→6 人</p>	<p>② 2 学年 基礎力診断テスト結果 GTZ D3 の生徒数 第 1 回 33 人 第 2 回 11 人 第 3 回 13 人</p> <p>③ 3 学年 ・進路実現に向けて効果的な指導をしていくか・・・89.4% 【参考】 ・進路情報を適切に提供されているか・・・91.2% ・進学課外や進路講演会は役に立っているか・・・83.9% ・「産社」や「総合」は進路を考えるのに役立っているか・・・78.7%</p> <p>(2) 授業改善 概ね達成できた</p> <p>(3) 進路実現 a 希望進路の実現 進学： 第 1 志望の合格率 92.0% 就職： 1 次内定率 95.7% 1 月末内定率 98.6% (公務員 3 人) (自衛隊 2 人)</p> <p>b 基礎学力の定着 学習到達ゾーン上昇者数 1 年→① →②110 人 →③ 67 人 2 年→①76 人→②133 人 →③64 人</p>	<p>※</p> <p>※</p> <p>◎</p> <p>※</p> <p>※</p>
-----------------	--	---	--

<p>豊かな心の育成</p>	<p>(1)「基本的な生活習慣の定着と確立」</p> <p>① 1学年 「社会人として必要な素養を身につけさせるために、進路を意識した働きかけを行うことで、欠席・遅刻の習慣化を防止する。」 【成果指標】 ア 年度末の皆出席者を80名(生徒数の約40%)以上 イ 遅刻総数年間150回以内(遅刻指数:0.75)</p> <p>② 2学年 「社会人として必要な素養を身につけさせるために、進路を意識した働きかけを行うことで、欠席・遅刻・提出物の遅延の習慣化を防止する。」 【活動指標】SHR・LHR等での指導(手帳への記入含む)、定期的(10回程度)な学年通信等での提示、定期的(考査1週間前及び長期休暇前)また必要に応じて学年集会を行い、未提出物の確認及び提出に向けての指導をする。 【成果指標】ア 2年次末の皆出席者80名以上(参考:1年次皆出席者79名) イ 遅刻総数年間150回以内(遅刻指数:0.75)(参考:1年次遅刻総数年間186回) ウ 未提出物0</p> <p>③ 3学年 「社会人として必要な素養を身につけさせるために、進路実現また来年4月以降の新生活を意識した働きかけを行うことで、欠席・遅刻の習慣化を防止する。」 【活動指標】定期的な学年通信等での提示、SHR・LHRでの指導、定期的な学年集会での指導 【成果指標】3年次末の皆出席者75名以上(昨年度皆出席者74名) 遅刻総数年間200回以内(遅刻指数:0.87)(参考:2年次遅刻総数年間252回)</p> <p>(2)生徒の変容把握(人権教育推進部) 「人権学習LHR後に実施する個別面談をとおして、部落差別問題をはじめとした人権諸課題について、生徒一人ひとりの認識や生活課題を把握し、学習を通して、生徒が変容していく姿を把握する。」 【活動指標】面談年3回実施。(ただし3学年は2回)</p> <p>(3)疾病の早期発見と命の大切さを考えることのできる心の育成(保健部) a 「全生徒の健康状態を把握するとともに、疾病の早期発見に努める。特に、歯科保健について自ら管理ができるようにする。」 b 「生徒が自他ともに命の大切さについて深く考え、自分も他人も大切にすることができるようにする。」 【活動指標】歯科検診の100%実施を目指す 各学年とも保健講演会を行い、事前事後アンケートを行う。 【成果指標】・健康診断実施統計で評価する アンケートで理解が深まったと答える生徒95%以上</p>	<p>① 1学年 ア 45名(2/8現在) (生徒数の22.6%) イ 217回(2/8現在) (遅刻指数:1.09)</p> <p>② 2学年 ア 皆出席者名63人 (生徒数の32%) (1/31現在) 参考:1・2年次皆出席者38名 イ 遅刻総数320回 (遅刻指数1.6) (1/31現在) ウ 未提出物6名</p> <p>③ 3学年 ・3年次末(1月31日時点) 皆出席者51名 ・遅刻総数(1月31日時点) 375回(遅刻指数1.65)</p> <p>(2) 第1回6/13~6/19 第2回11/14~11/20 第3回1/24~1/30</p> <p>(3) 〈歯科検診〉 長期欠席生徒を除くと2名のみ未受診であった。 〈保健講演会〉 1、2年次とも各2名を除き、全ての生徒の理解が深まり、知識がついたと答えている。</p>	<p>※</p> <p>※</p> <p>※</p> <p>◎</p> <p>※</p>
----------------	--	---	--



	<p>【成果指標】貸出率、利用率、授業での図書館利用数 生徒1人当たり貸出率3冊、生徒全体の利用率4割以上 授業での図書館利用数170時間以上</p> <p>c 清掃美化 「教職員による大掃除」</p> <p>【成果指標】年2回以上実施</p> <p>d 学校紹介の充実 「名張高校を希望する中学生の数を増やす。」</p> <p>【成果指標】入門講座への参加人数 定員の2.4倍以上</p>	<p>生徒1人当たり貸出率3冊 達成</p> <p>利用率4割以上 達成できず27%</p> <p>授業での図書館利用数 達成281時間</p> <p>c 清掃美化 教職員大掃除2回 達成(8/24、12/26 実施)</p> <p>d 学校紹介 達成ならず 453名(目標480名以上)</p>	<p>◎</p> <p>◎</p>
<p>教職員の人権 感覚の向上</p>	<p>(人権教育推進部)</p> <p>a 「校内研修 人権学習LHRにおいて部落差別問題を学習するにあたり、教職員一人ひとりが部落差別問題について、自分事として捉えるための研修を実施。具体的には経験豊かな教員からの実践例、体験談等をレクチャー。」</p> <p>b 「校外研修 新転任者対象の校外フィールドワーク。」</p> <p>【活動指標】職員研修年3回以上</p>	<p>・5月の全体研修 65%</p> <p>・新転任者対象フィールドワーク 100%</p> <p>・3月の全体研修 未 校内研修で教員間のスキルアップの向上を図ったが、100%到達まで、行かなかった。</p>	<p>◎</p> <p>◎</p>

### 改善課題

#### ○ 職員充実度の向上

働き方改革をすすめるため、「定時退校日」を設け、「部活動運営方針」に従って運営を行っているが、時間外労働時間の軽減につながりにくい状況がある。更に、効果的な取組みの検討や職員への周知徹底をすすめる必要がある。

#### ○ 情報提供による信頼の構築

学校の情報については、ホームページやポスター、チラシ等を通して情報提供を行っているが、外部の方々にとどの程度伝わっているかは不明である。今後はSNSを活用した情報提供についての研究も行き、伝えたい情報を確実に伝えることを検討していく必要がある。

## 5 学校関係者評価

<p>明らかになった 改善課題と次への 取組方向</p>	<p>○ 生活指導のあり方 生活改善に向けた生活指導や学年通信を利用した保護者との連携を継続した結果、最近数年で問題行動が半減した。しかし、規範意識の低い生徒が一定数いる現状がある。今後も継続して生活指導に力を入れていく必要がある。</p> <p>○ 授業改善 アンケート結果から、授業についていけない生徒も一定数いる。勉強の意味がわかっていない生徒も多いのではないかと。また、支援が必要な生徒も増えている。テスト等について、その場限りの学習になっており、成長に繋がっていないのではないかと。今から対応を十分に行い、社会に出てから困ることのないようにする必要がある。</p>
--------------------------------------	---

	<p>○ <b>報道機関等への情報提供</b> 報道機関等を通して本校の教育活動を地域に知ってもらうことで、学校に対する関心が高くなり、生徒の自信につながる。地域とともに成長する学校を目指して欲しい。</p> <p>○ <b>目標設定</b> 合理的な生徒が増えており、目標を達成できればそれで満足してしまう。目標設定する場合に、一つの目標だけを設定すると、達成した場合に燃え尽きてしまう可能性がある。段階を踏んで、低次の目標から順に高次の目標に向かって努力を続けるように設定する必要がある。特に就職や推薦で大学や専門学校等への進学を目標にすると、内定後の指導が困難になる。</p> <p>○ <b>生徒が学びたいと思う学校へ</b> 伝統のある学校だから、地域に愛され、生徒や保護者から入学させたいと思う学校となるよう努力を続けて欲しい。</p>
--	--

## 6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<p>○ <b>確かな学力の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の興味・関心や進路に合わせた学習内容の改善を進め、生徒が主体的に学習に取り組める環境を作る。</li> <li>・ アクティブラーニングの視点に立った授業改善を進める。</li> <li>・ 生徒による授業評価を適切に実施することで、生徒からの要望を的確に把握し、授業改善に生かしていく。</li> </ul> <p>○ <b>豊かな心の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習環境の改善を進めるため、登校時の遅刻指導や授業における遅刻指導を継続して徹底する。</li> <li>・ 人権教育や命の大切さを考える授業を充実させ、生徒が安全・安心して学習に取り組める環境を整える。</li> </ul>
学校運営についての改善策	<p>○ <b>職員充実度の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 働き方改革の観点から、時間外労働時間の縮減に向けて、業務の見直し、会議の精査、部活動指導のあり方など、更に職員全体で協議し取り組む。</li> </ul> <p>○ <b>情報提供による信頼の構築</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホームページの充実を図るとともに SNS 等を利用した情報提供の研究を進める。</li> <li>・ 今後の中学校卒業生との減少に伴う地域の学習機会の確保を目指して、中学生や保護者から選ばれる学校となるよう、適切な情報提供を行い、信頼される学校を目指す。</li> </ul>